

子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081

<https://www.kodomono-mori.net> mail:info@kodomono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動
隔月発行会報
(2026年1月号)

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

今月号では、保育防災について新しい提案をご案内しました。

災害時に子どもたちの命を守る仕組みと体制は、保育・幼児教育の根幹です。

この機会に、貴園における防災意識を確認することから始めませんか。

写真は、プランターで育てているどんぐりを見つめる子どもたちです。

新年にあたり、子どもの森づくり運動の原点を象徴する写真として掲載します。

(目次)

1. 【ご案内】保育防災の見える化への取り組み「防災意識尺度」
2. 「こどもの森づくりフォーラム in 奈良」開催レポート
3. JP子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2026」参加者募集のご案内
4. リレーエッセイ（2026年1月号）－共にふりかえる「東北復興グリーンウェイ」（その5）－

日本郵政グループからのお知らせ

日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

JP 日本郵政グループ



ぽすくまの動画はこちら

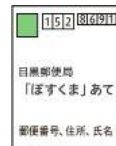


YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち
© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは郵便局のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみの郵便屋さんです。仲間たちもみんな手紙が大好きです。

お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局「ぽすくま」あて

※あて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れずご記載ください。

1. 【ご案内】保育防災の見える化への取り組み「防災意識尺度」

これまで「保育防災アクションマイスター講座」を通じて、全国の参加園に実践的な防災力向上を支援してきた子森ネットが、2026年から保育者一人ひとりの“防災意識”を見える化する取り組みを始めます。

【防災意識尺度】に回答していただき、そのデータを園ごとに分析し、「今どこが強みで、何を改善すれば園児をさらに守れるのか」を具体的に把握できるレポートとしてフィードバックします。これにより、園全体の防災体制の弱点が明確になる研修や避難計画の優先順位が立てやすくなる保護者への説明責任・安心感の向上につながるという大きなメリットが生まれます。

災害は、いつ・どこで起きるかわかりません。だからこそ“意識”を整えることは、子どもたちの未来を守る最初のアクションです。子森ネットではこの取り組みを、まずは「子どもの森づくり運動」参加園に優先的にご案内したいと思います。下記の概要をご確認いただいた上で、参加園の皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

職員みんなで
取り組む！
保育防災の
見える化



※「防災意識尺度」とは

- 「国立研究開発法人防災科学技術研究所」（以下「防災科研」）の火災過程研究部門が開発した、個人の防災に対する考え方・備え・行動意識を測定するための指標です。（＊参考⇒<https://www.bosai.go.jp/>）
- 保育者が自分自身の防災意識を知るだけでなく、園単位で集計することで、園における防災意識の特徴や課題を客観的に把握できます。
- 子森ネットは、「防災意識尺度」の使用について防災科研の承認をうけて提供しています。

【「防災意識尺度」運営概要】

1) 利用方法

以下の入力フォームにアクセスし、“防災意識尺度”に回答ください。

回答にかかる時間は 3～5分程度 です。

▶ 防災意識尺度 入力フォーム

右のQRコードから入力フォームに入れます。下記アドレスからも入れます。

⇒ <https://forms.gle/UaTvTdwEcucNP8vH8>



2) 結果の扱いについて

入力いただいたデータは、NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット） が集計・分析を行います。分析結果は以下を対象にフィードバックされます。

○回答した保育関係者ご本人 ○園全体（全職員分集計した傾向）

- ＊これにより、保育者や園ごとの特徴や改善ポイントが明確になり、より効果的な防災対策の検討に役立ちます。
- ＊個人名や園名入りの入力データが一般公開されることはありません。

3) 第一次利用期間：2026年1月～3月末

4) 運営体制

- 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
- 協力：国立研究開発法人防災科学研究所火災過程研究部門

2. 「こどもの森づくりフォーラム in 奈良」開催レポート

「全国植樹祭」のプレイベントとして全国で開催される「こどもの森づくりフォーラム」（以下「フォーラム」）の奈良大会が、2025年11月15日(土)、16日(日)に奈良市で開催されました。同フォーラムは、「自然保育」と幼児期の「森林環境教育」の全国的な機運を高めることをミッションとしており、子森ネットでは、子どもの森づくり運動とミッションを共有する取り組みとして運営事務局を担当しています。



秋田先生

奈良大会では、基調講演の講師には、長年日本の保育をけん引されておられる**東京大学名誉教授で学習院大学教授の秋田 喜代美先生**と、奈良県の「自然保育認証制度」の構築に深く携わられた**上越教育大学大学院教授の山口 美和先生**にご担当いただきました。

フォーラムには、奈良市を中心に全国から多くの保育者や保育関係者、さらに市民が参加し、分科会、フォーラム、さらにパネル展やサイドイベントにおいて、積極的な情報発信と議論が実施されました。



パネルディスカッション

奈良大会の詳細は、後日、こどもの森づくりフォーラムのホームページに掲載される報告書をご参照ください。

3. JP子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2026」参加者募集のご案内

毎年恒例のJP子どもの森づくり運動「全国集会＆研修会2026」のご案内です。1日目の「全国集会」では、2026年に18年目を迎える「子どもの森づくり運動」（運動）をふりかえり、あらためて運動の意義と今後の活動展開について考えます。基調講演の講師には、運動の初期から活動を見守っていただいている「新宿せいが子ども園」の**藤森 平司園長**にお願いしました。パネルディスカッションでは、来年度で活動を終える「東北復興グリーンウェイ」のふりかえりも行いたいと思います。

2日目の「（保育防災）研修会」では、東日本大震災の際、宮城県「大川小学校」で子どもさんを亡くされた体験をもとに震災の語り部として活動されておられる「Smart Supply Vision」特別講師の**佐藤 敏郎**さんを講師に迎え、自然災害のリアルについて学びたいと思います。「園庭緑化運動」と「保育防災認定講座」の2025年度活動報告も実施します。全国の参加園の保育者により良き保育・幼児教育について協議する年に一度の機会です。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。詳細は、同封のチラシ、及びホームページをご参照ください。

【開催概要】

- 1) 開催日：2026年2月17日(火)、18日(水)
- 2) 会場：「大田区産業プラザPIO」特別会議室
東京都大田区南蒲田一丁目20番20号
- 3) 主催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（子森ネット）
- 4) 共催：国際校庭園庭連合日本支部
- 5) 特別協賛：日本郵政グループ
- 6) 協力：（公社）全国私立保育連盟 （公社）大谷保育協会 （公社）こども環境学会、他
- 7) 募集対象：全国の保育・幼児教育関係者（先着30名）
- 8) 申し込み：ホームページ、及び上記QRコードからお申し込みください。



4. リレーエッセイ（2026年1月号）ー共にふりかえる「東北復興グリーンウェイブ」（その5）ー

「東北復興グリーンウェイブ」の活動をふりかえるリレーエッセイの最終回となる第5回は、現在東北での活動拠点となっている岩手県大槌町「つつみこども園」芳賀園長と、活動当初から関わり続けている福岡県「若久青い鳥保育園」の岡村園長にお願いしました。お二人とも、最終回にふさわしい暖かいメッセージをお送りいただきました。

➤ 未来へつなぐ 岩手県「つつみこども園」園長 芳賀 カナ

宮古市の「あかまこども園」の小関先生からご紹介いただき、東北復興グリーンウェイブの活動と出会いました。

震災の翌年はまだまだ瓦礫の山で、仮設住宅での生活、お店もない中での活動は、子森ネットの皆様、また受け入れをする園さんにとっても多くのご苦労があったと思います。私たちは東日本大震災から10年目の記念の年となる2021年6月の植樹会から参加させて頂きました。



青空のもと全国から届いた200本の苗を植樹しました。昔から漁業を生業として生活してきた私たちの地域にとって、どんぐりを植えるという経験はなく、送られてきて箱を開け、小さな苗木をみた時、子どもたちの反応は、『かわいい、何年たつとどんぐりの実がなるの?』でした。

東北グリーンウェイブの目的の一つである、『被災地から学んだ大切なことを全国の子どもたちが語り継ぐ』の思いは全国から送られたどんぐりの木に託され、2026年5月22日、大槌町の「鎮魂の森 あえーる」の～受け継いで未来へ～のエリアに植樹されます。

「あえーる」は震災津波ではるか海のかなたへ逝ってしまった人に、震災津波後故郷を離れて暮らす人たちが出会える場であり、震災から復興への歩みを後世に伝え、震災を知らない次世代の子ども達が日常的に慣れ親しんで利用できる場となってほしい、また町の未来へのエールを送る場所としてたくさんの人たちが集う場でありたいという願いが込められています。この場所で、大樹へと力強く成長していくことを地域でずっと見守ってきたいと思います。全国の多くの園の方々、日本郵政様、そして子森ネットの皆様多くの希望をありがとうございました。（※写真：2022年大槌町植樹会）

➤ 「東北復興グリーンウェイブ」をふりかえって 福岡県「若久青い鳥保育園」園長 子森ネット理事 岡村 斉

東北復興グリーンウェイブは、東日本大震災で大きな被害を受けた東北の復興を願い、緑の力で希望を未来につなぐ事を目的として始まり、全国各地の保育園・幼稚園の皆様方にご理解ご協力を得、今年で13年を迎えました。被災地にどんぐりの木を植え自然と共に歩むこの活動は、復興への長い道のりを支える大切な取組として徐々に全国へと広がってきました。



活動に参加する各保育園・幼稚園の先生方や子どもたちは苗木を手に土に触れながら「大きくなってね」と声をかけ、友達や保育者と協力して植樹を行ってきました。その姿は命を大切に思う心や、誰かを思いやる気持ちが育っていることを強く感じさせてくれます。子どもたちが植えた小さな苗木は年月を重ねるごとに成長し、復興の歩みと共に確かな緑となって東北の地に根付いています。

13年間にわたり積み重ねられてきたこの活動は、震災の記憶を風化させることなく、支えあう心と希望を次の世代へ伝える役割を果たしてきたのではないかと考えます。これまで多くの関係各位の皆様方と共に歩んだ事に感謝し、今後も子どもたちと共に復興への思いを育んでいければと考えます。

最後になりましたが、我々の思いに共感し、共に活動してきた全国各地の関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。（※写真：東北での植樹活動中の岡村先生）